

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

17.4.-6

見解書を作成した日			
17. 03. 2005			
名称及びあて先 日本国特許庁 (I S A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 富士 良宏	4 J	8830
	電話番号 03-3581-1101	内線	6829

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-10	
進歩性 (I S)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-10	
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

- 文献1 : J P 2003-113326 A (積水化学工業株式会社) 2003. 04. 18, 特許請求の範囲, 【0028】～【0036】, 【0043】～【0045】, 実施例
- 文献2 : J P 2002-348414 A (出光石油化学株式会社) 2002. 12. 04, 特許請求の範囲, 【0008】～【0009】, 実施例
- 文献3 : J P 2000-355640 A (積水化学工業株式会社) 2000. 12. 26, 特許請求の範囲, 【0021】～【0028】, 実施例
- 文献4 : W O 2002/79275 A (出光石油化学株式会社) 2002. 10. 10, 特許請求の範囲, 第10頁第22行目～第12頁第8行目, 実施例

請求の範囲1-7及び10に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-4に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

上記文献1-4には、置換又は無置換のアルキル基を有し、さらに層状ポリケイ酸のシラノール基と反応性の基を有する置換シリル化合物で処理した層状有機ケイ酸塩と、樹脂とがなる樹脂組成物及びその成形体が記載されている。ここで、その反応機構などから見て、上記層状有機ケイ酸塩が上記置換又は無置換のアルキル基が上記層状ポリケイ酸に結合した状態となっているのは、明らかである。よって、請求の範囲1及び10に係る発明は、上記文献1-4に記載の発明の樹脂組成物と同一なものといえる。

また、置換シリル化合物の置換基の構成において、請求の範囲2-7に係る発明と上記文献1-4に記載の発明との間に、差異があるものとはいえない。

請求の範囲8-9に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

上記文献1には、樹脂として、ポリ乳酸等の生分解性樹脂を使用する点も記載されている。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書(P C T 規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2005-68262 A 「E, X」	17. 03. 2005	22. 08. 2003	

2. 書面による開示以外の開示(P C T 規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)